

## 令和6年 医工連携フォーラム・マッチング会公開ニーズ集

ver R6.7.19

No.	所属機関	診療科名	職種	ニーズ名称	ニーズ内容
1	飯塚病院	肝臓内科	医師	目詰まりしない胆管ステントの開発	胆管が様々な事由で狭窄や閉塞をきたした場合はステントを挿入する治療を行う事が一般的だが、そのステントが時間経過や異物の逆流等で目詰まりする。現状は、数ヶ月毎もしくは目詰りした時点の交換再留置が必要。再留置は患者にとっても医療現場にとってもリスクとコストがかかる。
2	飯塚病院	小児科	看護師	小児・成人兼用ベッドの開発	当院の小児病棟では病床編成の兼ね合いで成人女性が入院する事がある。成人用と小児用ではベッドの仕様が異なる為ベッドの入れ替えや準備に時間を要している。また状況によっては成人用ベッドが不足し他病棟より借用する事もある。
3	飯塚病院	看護部	看護師	医療用ゾーニングを簡便に安全に実施する方法	院内で感染症等が発生した場合、隔離目的にゾーニングする事が推奨されている。しかし、現場では看護師は必要に応じて床にゾーニング用テープを手作業で貼っており、煩雑な作業上、衛生的にも悪い状態での作業となる。簡易的にゾーニングが可能 かつ 医療者や患者さんが視覚的にゾーニングされている状況が一目で判断出来るものが望まれる。
4	飯塚病院	臨床工学部	臨床工学技士	人工呼吸器未装着時のムダなアラーム防止デバイス	人工呼吸器装着されている患者さんは様々な事由で一時的に呼吸器を外す事がある。その際、外された人工呼吸器には患者さんの代わりになるテストラングを呼吸器に装着するが、呼吸器の設定によっては、アラームが頻発してしまう。再装着後の設定ミス等を防止する為に設定を変えずにアラームが鳴らないテストラングが望まれる。
5	飯塚病院	臨床工学部	臨床工学技士	呼吸器回路用湿度計	吸気が乾燥したままだと粘膜を乾燥させ粘膜損傷を起こし、また分泌物が乾燥することにより感染などが生じやすくなります。そこで人工呼吸器管理中、回路内の吸気の湿度をリアルタイムで計測したい。
6	飯塚病院	臨床工学部	臨床工学技士	内視鏡的に留置できる経腸栄養チューブ	栄養チューブの経食道的留置は基本的に直接挿入するが、困難な場合は内視鏡を利用する事がある。内視鏡での挿入時はガイドワイヤを使用するが、そもそも想定されていない為、挿入に苦慮している。内視鏡的に留置できる経腸栄養チューブの開発が望まれる。
7	飯塚病院	臨床工学部	臨床工学技士	低圧持続吸引器ホルダ	低圧持続吸引器を装着している患者さんは、移動する際に吸引器ごと移動する必要があるが、車椅子利用時に安全に低圧持続吸引器を固定したい。安定して安全に、そして医療者側から装置が確認出来る様に車椅子に取付けて患者を移動させたい。
8	福岡県済生会飯塚嘉穂病院	臨床工学部	臨床工学技士	内視鏡用レンズクリーナー	消化器領域において軟性内視鏡検査を行う前に、対物レンズに曇り止めを塗布し検査を行う。現在市販されている製品は、食品添加物由来の界面活性剤を主成分としたものであり、曇り止め効果と汚れの付着の防止目的に使用される。胃十二指腸および大腸検査時において、残留物が多いと対物レンズに汚れが付着することがある。視界改善の方法として、先端の送気・送水ノズルより送水を行うことでレンズ面の汚れを落とすのだが、送水を行ってもレンズが改善しないケースが一定数存在する。短時間で視界が改善するデバイス開発が望まれる。
9	福岡県済生会飯塚嘉穂病院	リハビリテーション科	医師	嚥下内視鏡・嚥下造影画像診断補助プログラム	高齢化社会において嚥下機能検査の需要は非常に大きい。嚥下検査に精通した医師は非常に少ないため、画像の判別を補助するシステムが必要である。嚥下機能検査は、その検査中にリアルタイムに様々な代償法を試みる必要があるが、リアルタイムに評価する能力がなければ、検査の意義が非常に薄いものとなる。画像(動画)評価をリアルタイムに支援するシステムがあれば、専門性が高くない医師であっても、容易に検査を遂行することが可能になる。
10	福岡県済生会飯塚嘉穂病院	リハビリテーション科	医師	車いすフットレスト電動開閉収納機構	体幹コントロールの障害から移乗動作時に必要なフットレスト折りたたみ・開閉が困難であるために移乗動作が自立しない車いすユーザーが存在する。モーター駆動などによって通常座位のままフットレスト収納が可能になれば、移乗動作が自立する車いすユーザーが増える。

## 令和6年 医工連携フォーラム・マッチング会公開ニーズ集

ver R6.7.19

No.	所属機関	診療科名	職種	ニーズ名称	ニーズ内容
11	福岡県済生会 飯塚嘉穂病院	リハビリテーション科	医師	車いす自動ブレーキ	注意障害による車いすブレーキ操作忘れや、頸髄損傷などによる上肢・体幹機能障害による車いすブレーキ操作困難などで移乗動作が自立しない車いすユーザーが存在する。事前に設定したトイレやベッドに接近すると自動でブレーキがかかるシステムを開発できれば、移乗動作が自立する車いすユーザーが増える。
12	福岡県済生会 飯塚嘉穂病院	経営企画室	事務	腕用ホットバック固定器具	抗がん剤使用時の血管痛緩和のためにホットバックを使用するが、腕から落ちたりするため固定するものがあると良いと感じた。
13	飯塚市立病院	栄養管理室	管理栄養士	配膳間違いを防ぐ配膳システム	温冷配膳車から患者様へお食事を届け、氏名の確認を行うが高齢患者様や認知症患者様での氏名の確認が困難な場合がある。また、同姓同名や似ている氏名等の患者の認識が患者本人との確認以外の方法で正確におこなうことで誤配膳を防ぎたい。
14	飯塚市立病院	看護部(手術室)	看護師	安全で楽に患者移動ができるストレッチャー	手術入退出時の手術台での移動を看護師の労力が少なく安全に患者移動を行いたい。様々な病院の体制にもよるが勤務スタッフが少ない時にはスタッフの力だけでの移動は危険が多く安全性を考えたい。
15	飯塚市立病院	看護部(病棟)	看護師	吸引チューブと紙コップのコラボホルダー	患者のベッドサイドで吸引業務をおこなう場面での看護職員の業務動線を短く、かつ効率的に吸引できる配置を考えたい。
16	飯塚市立病院	イノベーション推進室	臨床工学技士	安全安心できる転倒・転落防止システム	高齢者の入院が増加すると共に院内での転倒転落も増加の一途を辿っている。医療の現場の見守りのシステムも様々ではあるが、入院患者の安全安心な対応が可能で、また職員の働き方改革につながる職場環境にも配慮できる見守りシステム